



どこまで上がる火災保険料？

2023年6月、損害保険料算出機構は「火災保険参考純率」の改定を発表しました。この参考純率は各保険会社が火災保険料を算出する際の、大きな要因となります。2018年に全国平均5.8%、2019年4.9%、2021年10.7%、そして今回は全国平均13.0%の大幅な引上げとなりました。引上げの主な要因は火災よりも自然災害、とくに台風等による風災・水災の、支払いの大きさが原因となっています。まさに「地球沸騰化」の影響がここにも表れている訳です。過去の例でみると、

この「参考純率改定」をうけて各保険会社は、翌年の火災保険料の改定をおこなっています。2022年10月に、多数の保険会社が火災保険の改定したばかりですが、2024年も火災保険料が大幅にアップとなることが推測されます。特に今回は、水災料率において契約者間の保険料負担率の公平化から、水災の地域リスクに応じて、5区分に細分化しました。このため、特に台風等により水災が発生する地域ほど、保険料がアップすることが予想されます。物価上昇が続くそうですね。

行って観たい
世界のお祭り！
ランキング



1. リオのカーニバル
ブラジル
2. クリスマスマーケット
ドイツ
3. サンフェルミン牛追い祭り
スペイン
4. ホイアンランタン祭り
ベトナム
5. ベネチアカーニバル
イタリア

祭

行楽の秋

残暑が厳しいですが、暦の上では立秋（8月8日から22日）も過ぎ、本格的な秋となります。今年の夏休み（お盆）は、台風の影響でレジャーを控えた方が多かったため、9月の連休にはリベンジ休暇として出かける人が多いとのこと。実は今、レジャー施設も大幅に値上げとなっているようです。直近1年で約6割のレジャー施設が料金の改定または、変動料金制の導入をおこなったそうです。特に遊園地の値上がり幅が大きく平均4213円とのこと。また入場料は値上げしていない施設も飲食代の値上げをおこなっているとのこと。家族4人で遊園地の1日パスポートを購入して、食事をして帰ると、大変な金額となりますね。庶民の味方（？）の映画館も、今やチケット代は平均2000円とのこと。こんな時、公共の施設を見直してもよいのではないでしょうか？先日暑さを逃れるため、国立極地研究所（東京都立川市）に行ってきましたが、入場料無料で数時間楽しく過ごすことができました。皆様の身近にもきっとお得な公共施設があるはず。秋のレジャー、リベンジ消費派と節約派。あなたは、どちらですか？



お問い合わせ先

株式会社マエダ
保険課
〒580-0017
大阪府松原市柴垣2-975-1
Tel 072-330-0400
FAX:072-330-0401
営業時間 9:00～19:30
定休日:火曜日

SJ23-06628 2023/08/24

発行年月日
2023年8月31日
編集長代行
本部 曾宮

編集長より
ひとこと



しばらく
育休中です。
よろしく
お願いいた
します。

9月のお知らせ

地球沸騰化の時代、自然災害に注意を
事前の準備をしっかりとしておきましょう。